

街と海をつなげる 公園のようなフェリーターミナル

三原のシンボルとなる「水平線と重なる街の軸組」 特定テーマ①②

人々の多彩な活動が集まり、周辺に広がっていくような場を創り出すことが私たちの基本方針です。また、三原の玄関口にふさわしい「街と海と」を意識した景観形成」として、かつてこの街にあったアーケードのスケールによって形成された軸組が新しい街のシンボルとなります。



かつて帝人通りであった廊木・アーケード、街の賑わいとともにも定着していた。

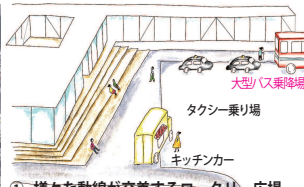
帝人通りに残るアーケードの面影、かわいらしい小さなスケール。

みちでもあり広場でもありターミナルでもある地域 拠点、アーケードのスケールでつくる 特定テーマ①②

かつて帝人通りであったアーケードはこの街のにぎわいの象徴でした。鉄骨で組まれた高さ10メートルを超える大きなアーケード、店の軒先が連続する雁木のような小さなアーケード。今でも雁木のように軒先が連続する路地は駅前や海側の帝人通りにその名残があります。こうして人々が往来した構造体は古くから経験されてきたこの街特有のスケールであり、大きくて立派な公共施設などが無かった時代から、この地域の共同体の活動を支えて来たはずで、未来に渡ってまちの活力を「つないでいく」ための「観光と生活の共存」できるターミナル施設として、大きな雁木のような平面計画とし軒先が連続する小さなアーケードと同じスケールを採用します。

アクティビティの連関を意識した動線設計 特定テーマ①②③

地域住民の日常生活の一部であり、コミュニケーションの場とするため、街空間が連続し入り込みやすい計画とし、ここで生まれた活動が再び街へと還流するのを促します。道路側の広場ではキッチンカーが寄せられ、屋外テラスでは日常的に街の出店者が地域住民や来訪者を出迎え、観光案内人として街を紹介し、観光で訪れた人々も地元コミュニティに触れながら、より深くこの地域を同じくすることができます。また、東西のスロープによりユニバーサルな動線を確保しています。朝市・バザー・古本市などの大規模なイベントでは西側のイベント公園のステージデッキやパーゴラも利用され、ターミナルを含めた港公園全体がイベント広場のように機能します。



往来する人々が同じ空間を共有し、様々な形で港を活用していくことで、土地への愛着や共同体意識が育れます。

浸水対策のために950mm床を高くしているため、多島美の風景を眺望し遊ばれることなく楽しむことができます。

